

第2回3月11日知事メッセージ起草委員会 主な意見

日 時 平成29年2月21日(火) 16:00～16:55

場 所 応接室（本庁舎2階）

出席者 委員長：知事

委員：加藤卓哉、佐々木孝司、蜂須賀禮子、早川正也、本多環
(50音順) ※菊池委員、横田委員は欠席

事務局 企画調整部 伊藤部長

企画調整課 林課長、加藤主幹、中村主任、佐久間副主査、山口主事

1 全体的な趣旨・方向性等

- ・6年目にして代わり映えしないと思われるかもしれないが、ずっと訴えていくことは同じ事だと思う。
- ・見捨てられ感を感じている方がいらっしゃるの、知事の力強い思いや「絶対に見捨てないですよ」という温かい思いが伝わるようなメッセージにしたい。
- ・原発事故だけではなく、地震や津波被災者への配慮や、浜通りだけではなく、中通りや会津への配慮も必要。
- ・5年以上が過ぎてもずっと残っているのが浜通りの問題であり、原発の問題なので、今書くと、浜通りや原発事故が中心のメッセージになる面がある。例えば、このエピソードは津波のことで分かるように記載を工夫してはどうか。

2 対象について

- ・誰のため、何のためのメッセージなのかを、改めて問い直す必要がある。
- ・立ち位置は「県民の代表」。誰には、「県内」も含むが、主は「国内・海外」。目的は、福島の実況や思いの発信。
- ・メッセージは、受け取る方が広範でそれぞれの状況も違うので、ある程度総花的になるのはやむを得ない。

3 ことば、流れ等

- ・この知事メッセージには、傷ついたり辛い思いをしている人にもプラスになるような要素を入れていかなければならない。
- ・ベースはできてきたが、全体の流れなどは、もう少し練った方がいい。
- ・引用の部分については、本人の了解が必要。
- ・固有名詞は、できるだけ正確に。また、県外の方、第三者など福島の実況をよく知らない方でも分かるように。

4 内容

- ・ 翻訳し、世界へも発信することを考えると、「平成」より「西暦」がよい。
- ・ 3. 11とは鎮魂の日であり、たくさんの方が亡くなっているのに、慰霊の言葉がほしい。
- ・ 体言止めは、多用しすぎると意味が通らなくなる。並列で並べるのなら統一的に。
- ・ インフラ等が、福島を誇れるものの代表かどうかを再確認する。
- ・ インフラを入れるなら、常磐自動車道やJR常磐線など、住民に身近なインフラなど。
- ・ 米の全量全袋検査をやっているのが大丈夫です、福島の魚も大丈夫です、など、「人の取組によって、ここまできました」というものがあると良い。
- ・ 現役世代だけでなく将来の力も入れて頑張ろうということ。
- ・ 最後は、みんなに問いかける文で締めたい。